



個性美と安全性

ラバイドE、FV、NT、クラシック、Vクロス、アストロE、RX-7RR3と、ここ数年アライが発表させていただいたモデルは、外観フォルムから見直したまったくのニューモデルだということにお気づきでしょうか。世の中、カタチはそのままに、機能だけを少し加え名前だけを変えた新製品が多い中で、アライが従来よりも大きな手廻と労力をかけ、金型から掘り起こした新しいフォルムを生み出すのは、2つの大きな理由があります。

Arai

一つには、各モデル毎の個性をより重視し、工業製品としての美しさに磨きをかけていくことです。前方からの姿は、多種多様な顔をもつヘルメットも、横や後ろからの姿では、どれも似通ったものになってしまいます。後ろ姿やどの角度からでもモデル毎の個性を主張することはできないかなど、カラーリングだけでない素材としての美しさや個性を引き出すことを目指しているのです。奇をてらったような変形ヘルメットではない、人間の頭をきれいにトレースしたような基本型をふみ

出す事なく、モデル毎の美しさを引き出し、ライダーの感性に訴えているのです。

Arai

もうひとつの大きな目的は、フォルムからの剛性を引き出すことです。ヘルメットのフォルムの基本は、頭の骨格に近いラインを持つことです。もし、ヘルメットのラインが頭に対してイビツなものであれば、そこにだけ不自然な力が加わることとなります。だからアライのフォルムの基本は、上からは、前が狭く後ろに広く、横からは、前頭部が立上がり気味で後頭部にかけて盛り上がり、正面はアゴにかけ絞込まれている、人間の自然な頭のカタチです。

Arai

この基本フォルムを生かしながら、剛性を高める形状を模索していくのです。例えば、薄い紙でも少し丸めれば、曲げにくくなります。一つ一つのモデルを作り上げる度に、少しでも剛性を確保することはできないか、3次元方向での微妙な円の組み合わせを、数ミリ以下の単位で調整しているのです。これは、見

た目にはすぐに分からないものですが、この微妙な調整の積み重ねにより、高い剛性を確保することが可能となるのです。

その結果アライのフォルムは、全ての面に3次元方向での円が取り付けられています。例えばシールド、ホルダーを外した裏側の面にも3次元方向でのゆるやかな円が組み合わされています。世界中の多くのメーカーでは、シールド、ホルダーの裏側は、シールド機構を組み合わせやすくし外見上のフラッシュサーフェスを優先するために、平らだったり、内側に凹んでいたりするのですが、アライは、あくまで安全性優先です。そのほか、ヘルメット下部の剛性確保のためのリブなど、安全性を優先した機能美が、新しいアライのフォルムなのです。

Arai

この秋、アライは、東京モーターショーに出展します。そこでも、また新しい美しさと、個性、そして安全性を追求したフォルムを発表させていただきます。ご期待ください。